

瀬戸内海研究会議では、環境事業団地球環境基金の助成を得て、瀬戸内海環境保全活動テキスト「瀬戸内海とわたしたちー森～川～海からひと・くらし・いきものを考えよう」を編集・作成しました。

◎テキストの編集・作成

この冊子は、平成10年度に「瀬戸内海研究会議（会長：岡市友利香川大学名誉教授）」のなかに設置された「瀬戸内海環境保全活動テキスト検討ワーキンググループ」の検討結果に基づいて編集・作成されました。

瀬戸内海環境保全活動テキスト検討ワーキンググループ

委員長	上嶋 英機	中国工業技術研究所海洋環境制御部長
委員	網本 雅充	中国新聞社文化部
〃	今村 賢太郎	広島県保健環境センター水質環境部研究員
〃	佐尾 和子	株式会社海洋工学研究所出版部長
〃	笹川 則男	山口県漁業協同組合連合会総務指導部長
〃	白木 江都子	貝塚市立自然遊学館
〃	ハーヴィ・シャピロ	大阪芸術大学学芸部教授

◎テキストの編集に際して

○瀬戸内海の環境の経緯

瀬戸内海は、多島美と豊かな水産資源を誇る内海であり、古来多くの人々が沿岸域で生活を営み、漁業をはじめ海運業などの産業が発達する中で地域の文化が育まれてきました。

しかし、その経済的、地理的な条件や遠浅で穏やかな海域の特性等を背景に、特に戦後の高度成長期には産業が沿岸に集積し、多くの浅海部が埋め立てられ、工場排水や生活排水により、赤潮が頻発しました。

このような状況を受けて、地域からの働きかけにより、昭和48年7月に瀬戸内海環境保全臨時措置法が制定され、昭和53年6月には瀬戸内海環境保全特別措置法（以下「瀬戸内法」という。）に恒久法化されました。

瀬戸内法では、瀬戸内海環境保全基本計画の策定、特定施設の設置の許可制、汚濁負荷量の総量規制、指定物質の削減指導、自然海浜保全地区の指定、埋立て等についての特別の配慮等の特別な措置が規定されています。

特に、汚濁負荷量の総量規制、埋立て等についての特別の配慮等は先駆的なものでありました。さらに、瀬戸内法がめざす環境保全の範囲は、水質の保全、海面及びこれと一体をなす陸域における自然景観の保全並びにこれらの保全と密接に関連する動植物の生育環境の保全を含む広範なものとなっているところが特徴となっています。

これらの施策により、国や関係する地方公共団体、事業者、住民等が連携して環境保全に関する取組みがなされ、かつて「瀕死の海」といわれた瀬戸内海は一時の危機を脱しました。

○瀬戸内海の環境の課題

瀬戸内法が施行されて四半世紀が経過し、各種施策の実施により、人間活動に起因する環境への負荷の軽減について一定程度の成果が見られましたが、過去の開発等によって蓄積された環境への負荷や新たな環境問題への対応など依然として取り組むべき課題は多いといえるでしょう。

この間、環境保全に対する考え方は、当初の水質改善、有害物質対策等の公害対策中心のものから、環境基本計画等に見られるように、生物多様性の保全、健全な水循環の回復・確保、物質循環の促進、豊かな自然との触れ合いの確保など幅広い環境保全を目指すものに変化してきました。また、環境に対する国民の意識も大きく変化してきており、各般の環境関連技術も大きく進歩しています。

このような中であって、「瀬戸内海が、我が国のみならず世界においても比類のない美しさを誇る景勝地として、また、国民にとって貴重な漁業資源の宝庫として、その恵沢を国民がひとしく享受し、後代の国民に継承すべきもの」（瀬戸内法第3条第1項）であることは不変であり、瀬戸内海は、生活、産業等を含む人間と自然との共生の場として、海域毎の地理的、自然的、社会経済的な条件を考慮しつつ、今後とも一体的、総合的に保全されていくことが求められています。

このため、環境に関する新たな流れを踏まえて、現状における多くの課題に適切に対処することが必要です。

○テキスト作成の趣旨

現在の人間活動は自然環境への加害者となる場合もあることから、自然との共生の考えが重要との認識に立ち、自然の仕組み・大切さへの理解、人と自然との関わりへの理解を促進し、自然を守る気持ち、環境保全活動に参加する態度を育むために環境教育・環境学習を推進することが必要です。

このため、海とのふれあいを確保し、その健全な利用を促進するために必要な施設や瀬戸内海の自然環境、住民生活との関連等についての理解を促進させるプログラム等の整備を促進することが必要です。

特に、瀬戸内海は環境学習の素材が豊富であることから、体験的な環境学習として、自然公園等における自然観察会、子どもを中心とした各種施策（こどもエコクラブ事業、子どもの水辺再発見プロジェクト、子どもパークレンジャー事業）などにより体験的学習の機会を提供し、地域環境等に関する理解の向上を図ることが求められています。

本テキストはこうした活動に使用して頂くことを目的に、「瀬戸内海」を「知る」、「考える」、「実践する」で構成し、作成しました。

体験的学習の場で対象者に応じて、必要に応じ、必要な箇所をご活用頂ければと思っています。

なお、本テキストについて、みなさんから積極的なご意見をお寄せ頂きたいと思っています。今後、実施を予定しているテキストの改訂に参考したいと思っています。

◎テキストの目次

はじめに

第1章 瀬戸内海がかげがえのない海である

1. 瀬戸内海
2. 瀬戸内海の自然環境
3. 瀬戸内海の歴史と文化

第2章 瀬戸内海と私たちの生活と密接に係わっている

1. 瀬戸内海と私たちの生活
2. 瀬戸内海の産業とくらし
3. 瀬戸内海的环境はいま

第3章 瀬戸内海的环境を身近なところから考える

1. 瀬戸内海的环境－森・川・海はつながっている
2. 森を調べる
3. 川を調べる
4. 海を調べる

第4章 自分でできることを考え、実践する

1. 瀬戸内海的环境を守るには
2. 仲間と一緒にやろうーこどもエコクラブ
3. 答えてみよう瀬戸内海クロスワードパズル

データ編

1. 瀬戸内海的环境に関する問い合わせ先
2. 瀬戸内海地域にある博物館一覧